

「重点研究・教育」助成事業実績報告書

研究課題名	異文化圏における精神疾患患者への看護の考え方の比較検討	
研究期間	令和元年度～ 令和5年度	
研究組織		
研究者名	所属	分担研究項目
(研究代表者) 川村道子	宮崎県立看護大学	研究全体の総括
(研究分担者) 川北直子 葛島慎吾	宮崎県立看護大学 宮崎県立看護大学	協議と内容分析 協議と内容分析
(連携研究者) 小笠原広実 Budi Anna Keliat	AIKOUKAI CLINIC SENAYAN (医療法人偕行会 法人本部 海外戦略部) インドネシア大学	インドネシア研究協力者との連携調整 協議と内容分析
研究成果の報告		
<p>本研究の目的は、各国の様々な事情の中でも精神疾患患者の基本的人権が否定されることなく、健康回復につながる確かな取り組みへの示唆を得るために、精神疾患患者への看護の考え方の特徴を国際間で比較検討することとした。</p> <p>まず、日本とインドネシアの研究者間で本研究の意図と目的を共有し、今後の計画を確認し合う必要があり、インドネシアに渡航した。この渡航において、インドネシアの研究者と研究の意図や目的を共有できただけではなく、日本語、インドネシア語、英語に堪能な通訳者の役割の重要性やインドネシアで研究を遂行するために必要な諸経費について確認ができた。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響で、インドネシアへの渡航ができなくなり、研究計画の変更を余儀なくされた。オンライン会議を通して研究計画の変更について協議を進め、日本・インドネシアそれぞれ各国の研究者が現地のデータ収集を行うこととし、下記の研究を進めた。なお、下記の研究は宮崎県立看護大学研究倫理委員会の承認を受け実施した（承認番号：第3-30号）</p>		
<p><研究1></p> <p>異文化圏における精神疾患患者への看護の考え方の比較検討～インドネシアと日本の看護学生の比較～</p> <p>1. 研究目的</p> <p>各国の様々な事情の中でも精神疾患患者の基本的人権が否定されることなく、健康回復につながる確かな取り組みを検討するための基礎資料を得るために、精神疾患患者への看護の考え方の特徴について、インドネシア-日本間で比較検討を行うことを本研究の目的とした。まず、第1段階とし</p>		

て将来的に精神疾患患者の看護に携わる機会を持ちうるインドネシアの看護学生と日本の看護学生の比較を行った。

2. 研究方法

1) 研究対象者

精神看護学の講義を終了した日本の看護学生、インドネシアの看護学生

2) データ収集方法

精神疾患患者への看護に関する20分程度の「訪問看護を拒む精神疾患患者へのかわり」に関する動画教材（日本語・インドネシア語）を作成し、研究対象者に視聴してもらった。動画教材視聴後、研究対象者に30分程度の半構造化グループインタビューを実施した。インタビューでは、動画教材の内容およびインドネシア・日本両国の研究対象者の状況を踏まえて作成した5項目（①訪問を拒否する状況に遭遇し、看護師としてどのように行動するか、②これまでに対象が穏やかに過ごす場面がなかったかを想起しようとする看護師をどのように考えるか、③看護師として対象をどのように捉えるか、④この対象にどのような看護をするか、⑤精神疾患患者への看護の考え方で大事にしたいことは何か）について聞き取った。

3) データ分析方法

録音したインタビュー内容を逐語録に変換したのち、インタビュー内容全体を精読し、全体の把握を行なった。その後、インタビューで聞き取った5項目に関する文脈に着目し、意味内容ごとにコーディングした。次に、コードの共通性・相違性について検討し、カテゴリーを生成していった。最後に、インドネシアの看護学生と日本の看護学生のインタビュー分析内容を比較検討した。

4) 倫理的配慮

研究対象者に対しては、研究開始前に研究の目的、方法、結果の公表等について文書で提示し、文書により同意を得た。

3. 結果

研究対象者は、日本の看護学生23名、インドネシアの看護学生30名であった。生成されたカテゴリを両国間で比較を行った結果、共通の考え方として、患者の心が安定して地域生活を送るために訪問看護は有用であり訪問看護師との良好な関係を作ることが重要であること、患者の本来持つ健康な側面に焦点を当て尊厳を持って対峙することがあった。相違がみられた考え方として、これまでの生活のあり方と精神疾患と身体疾患の成り立ち、チーム連携による訪問看護がみられた。

4. 考察

日本の看護学生とインドネシアの看護学生双方とも、人生史を精神疾患に追い込まれていく過程として捉える点は共通であったが、日本の学生に関しては、糖尿病や高血圧にみられる身体疾患の成り立ちを重ねて人生史を捉えている点で、そのような捉え方が見られないインドネシアの学生と相違があった。糖尿病や高血圧などの生活習慣病は食生活に左右されるところが大きいが、インドネシアでは、食の質に关心をもって調整できる経済状況でない人々も多いことから、精神疾患と生活史は重ねて捉えても、生活史と身体疾患を結びつけて患者を捉えることの意識は小さいと考えられる。

今回、将来各国の看護領域で活躍することになる看護学生の考え方の比較を行ったところ、看護領域においては、共通性や相違性があることが明らかになった。看護という仕事は人々がうまく生きていけるよう生活支援を行う専門職であることから、看護の対象となる人を、社会生活を送る中で育まれて発展していく精神をもつ生活者として捉える。生活のしかたは、その国の文化、経済、宗教、政治など地域性を持つという特徴が生じることから、この地域性に見合った活動でなければ、良い看護にはなりえない。各国の看護師が、その特徴がどのような状況で生まれているのかを意識し、違いを尊重し合うことが重要であると考えられた。

<研究2>

異文化圏における精神疾患患者への看護の考え方の比較検討～インドネシアと日本の精神科看護師の比較～

1. 研究目的

各国の様々な事情の中でも精神疾患患者の基本的人権が否定されることなく、健康回復につながる確かな取り組みを検討するための基礎資料を得るために、精神疾患患者への看護の考え方の特徴について、インドネシア-日本間で比較検討を行うことを本研究の目的とした。第2段階の研究として精神科看護師の考え方の特徴を比較検討した。

2. 研究方法

1) 研究対象者

精神科病院に勤務実績のある日本の看護師、インドネシアの看護師

2) データ収集方法

精神疾患患者への看護に関する20分程度の「訪問看護を拒む精神疾患患者へのかかわり」に関する動画教材（日本語・インドネシア語）を作成し、研究対象者に視聴してもらった。動画教材視聴後、研究対象者に30分程度の半構造化グループインタビューを実施した。インタビューでは、動画教材の内容およびインドネシア・日本両国の研究対象者の状況を踏まえて作成した5項目（①訪問を拒否する状況に遭遇し、看護師としてどのように行動するか、②これまでに対象が穏やかに過ごす場面がなかったかを想起しようとする看護師をどのように考えるか、③看護師として対象をどのように捉えるか、④この対象にどのような看護をするか、⑤精神疾患患者への看護の考え方で大事にしたいことは何か）について聞き取った。

3) データ分析方法

録音したインタビュー内容を逐語録に変換したのち、インタビュー内容全体を精読し、全体の把握を行なった。その後、インタビューで聞き取った5項目に関する文脈に着目し、意味内容ごとにコードイングした。次に、コードの共通性・相違性について検討し、カテゴリーを生成していった。最後に、インドネシアの看護師と日本の看護師のインタビュー分析内容を比較検討した。

4) 倫理的配慮

研究対象者に対しては、研究開始前に研究の目的、方法、結果の公表等について文書で提示し、文書により同意を得た。

3. 結果

インタビューの5つの問い合わせに対して、両国の比較を行った。結果、その人の生活史からどのような人なのかを描いて、対象への尊厳をもって対峙するという点では同様の考え方が確認された。また、インドネシアでは、集団活動が効果的と考えており、患者教育や家族指導、さらに信仰心を高めることが大事と考えられていた。日本では、問題行動に注目して関わるのではなく、行動の意味を捉え、健康な力に注目して社会に發揮できるためのかかわりを検討するため、個別事例に関するチームカンファレンスが重要、また身体疾患が生じた過程にも着目する、といった具合に各国の特徴が明らかになった。

4. 考察

第1段階の研究で日本とインドネシアの看護学生の考え方の比較、第2段階の研究で日本とインドネシア看護師の考え方の分析を行ったところ、ほぼ同様の傾向が見られた。各国の様々な事情が反映されていると考えられるが、精神保健医療の歴史の変遷、宗教、文化、経済状況のなかでも、特に看護専門職の歴史と国民の認知等が実践に影響していると考えられた。

研究発表

(1) 雜誌論文

川村道子, 小笠原広実, 葛島慎吾, 川北直子, Lisna Agustina, Hilda Meriyandah, Kiki Deniati, Dinda Nurfajri : 異文化圏における精神疾患患者への看護の考え方の比較検討（その1）～質的記述的研究によるインドネシアと日本の看護学生の比較～, こころと文化, in press. (査読あり)

(2) 学会発表

川村道子, 小笠原広実, 葛島慎吾, 川北直子, Lisna Agustina, Hilda Meriyandah, Kiki Deniati, Dinda Nurfajri(2022) : 異文化圏における精神患者への看護の考え方の比較検討～インドネシアと日本の看護学生の比較からみた考え方の特徴～, 第29回多文化間精神医学会学術総会.

川村道子, 小笠原広実, 葛島慎吾, 川北直子, Lisna Agustina, Hilda Meriyandah, Kiki Deniati, Dinda Nurfajri(2023) : 異文化圏における精神患者への看護の考え方の比較検討（その2）～インドネシアと日本の精神科看護師の比較からみた考え方の特徴～, 第30回多文化間精神医学会学術総会.

(3) 図書

なし

(4) その他（産業財産権の出願・取得状況や(1)～(3)に当たらない研究発表など）

なし